



TITLE:

FDの新たな組織化を目指して:教員、学生、事務職員(<第12回大学教育研究フォーラム シンポジウム>シンポジウム)

AUTHOR(S):

松下, 佳代; 溝上, 慎一

CITATION:

松下, 佳代 ...[et al]. FDの新たな組織化を目指して:教員、学生、事務職員(<第12回大学教育研究フォーラム シンポジウム>シンポジウム). 京都大学高等教育研究 2006, 12: 189-190

ISSUE DATE:

2006-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/54182>

RIGHT:

シンポジウム「FDの新たな組織化を目指して―教員、学生、事務職員―」

司会 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター助教授）

（溝上） まだ戻ってこれていないかたがたくさんいらっしゃるようですが、時間が押していることもありますので、始めさせていただきたいと思います。後半のシンポジウムの司会進行を務めさせていただきます、京都大学高等教育研究開発推進センターの溝上です。こちらは松下です。前半は私が主に担当しまして、後半のディスカッションに当たる部分は松下が担当させていただきます。

お手元にありますように、後半のシンポジウムは「FDの新たな組織化を目指して―教員、学生、事務職員―」というタイトルでテーマを立てています。私たちのセンターで、フォーラムは12回めになりますけれども、比較的FDを主題のテーマとして毎年検討を進めてきました。昨今、FDも非常に多様な取り組みとして展開しておりまして、とりわけ今回のテーマはその苦悩というか、主体になる組織の中心になるかたとして、例えば教員であったり、あるいは事務職員、学生という多様な組織形態の中でFDが行われているという昨今の事情を見まして、今日はその辺で共通してくる組織的な問題、あるいは果たして同じようにFDと言っているけれども、その中身はどういうことなのか等、特色のある大学のお三方から事例報告を頂き、最後に改めて私たちがFDというものを考えていくに当たっての素材としたいと思います。

今日、発表者としてお招きしていますのは、私の手前のほうからご紹介していきますと、久留米大学の文学部教授、教育・学習支援センター長であります安永悟先生です。安永先生は心理学をご専門にされていまして、協同教育学会では非常にご活躍されていて、会長職もお務めです。久留米大学のセンターの中で中心的な役割を果たされている先生で、今日は非常に興味深いお話が聞けるのではないかと期待しております。

続きまして、神保啓子先生、名城大学の学務センターの事務職員のかたです。大学教育開発センターというものが名城大学にありますが、彼女はそこで中心的にFDを担当して活躍されたかたで、事務職員がFDにどういうふうに関わり、全体を組織化できるのかというあたりの話をしていただけたと思います。よろしくお願いいたします。

3番めに、林哲介先生は先ほどから何度もお名前が出ていますので、特にご紹介は要らないかと思いますが、大事な点だけ申し上げておきますと、林先生は京都大学で教養部時代から大綱化以降、総合人間学部になってからも、ずっと教養教育の改革に携わられている方です。総合人間学部の学部長もお務めになられ、その後は高等教育研究開発推進機構をリーディングされてきた先生であります。今日は、林先生を中心にこの2年間、学生と教職員がともにやってきた交流会プロジェクトを通して、果たしてFDというものをどういうふうに考えていけるのかというご報告を頂けるものと思います。よろしくお願いいたします。

4番めに田中毎実先生です。紹介する必要はないかもしれませんが、林先生と同じ所属でもありますので、違いだけ簡単に申し上げますと、田中先生は前センターの高等教育教授システム開発センターの立ち上げ当時からおられた先生で、林先生が特に教養部や全学共通教育の中でリーダー的な役割を果たされたかたという対比でいえば、教養教育だけではなく、学部教育との全学的な教育の視野で活躍されてきたかたです。特色GPでも工学部を中心に学部教育の改善をはかってされました。また、私たちのセンターは、京都大学の中だけではなく、できるだけ全国的ないろいろな大学の拠点といいますか、あるいは海外まで含めてさまざまな大学教育の実践を見ていきたいというミッションももっていますが、そういう立場でずっとFDというものを考えてこられた先生でもあります。よろしくお願いいたします。

各先生がたには、時間は短いのですが、20分ずつお話しいたします。前の3人のかたには事例報告をしていただきまして、田中先生にはどちらかといえばお三方の報告を受けて先生が考えられることを多少コメント的にお話ししていただこうと思います。ただ、冒頭にも申し上げましたように、FDといってもさまざまな形で展開しているわけで、その扱う範囲も非常に多様な広がりを見せています。その意味で、何をFDとしているのか、あるいはその

課題、どんな点を組織化していくポイントとしているのかといったあたりのすり合わせを最後にしていくことができれば、シンポジウムとしては非常にいいのではないかと思います。

では、時間も押していますので、早速、安永先生からお話ししていただこうと思います。私たちは下に下りて、ディスカッションのときにはまた上で並ぼうと思いますので、そういう形でよろしく願いいたします。